年間授業計画　様式例

# 高等学校 令和７年度（１学年用） 教科　　芸術　　科目　書道Ⅰ

教　科：　芸術　　科　目：　書道Ⅰ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　１学年　１組～　５組

教科担当者：（１組：）　（２組：）　（３組：）　（４組：）　（５組：）

使用教科書：（ 書Ⅰ（光村図書）　　）

教科　芸術　　の目標：

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

科目　書道Ⅰ　　の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|---|
| 臨書において、対象の古典作品にまつわる歴史的背景及び字形・筆法を理解し、書写技術の向上をはかる。また、創作において、適切な作品のまとめ方を理解する。 | 臨書・創作ともに、作品の表現方法を理解し、その鑑賞ができるようにする。<br>ジャンルにあった作品の表現及びまとめ方ができるようにする。 | 積極的に授業に参加し、繰り返し書き研鑽することにより技術の向上をめざす姿勢を身につける。対象をよく観察することにより、表現を読み取る姿勢を身に着ける。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 表現 | | | 鑑賞 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 漢仮 | 漢 | 仮 | | | | | | |
| 1学期 | 1漢字の書<br>1-1はじめに<br>漢字の書の概念と歴史的変遷。 | 教科書・プリントを用い、書体・書風の概念と歴史的な変遷を理解させる。<br>書道用具の性質と取り扱い方を理解させる。 | | ○ | | ○ | 書体・書風などの用語・概念を理解しているか。<br>漢字の歴史的な変遷について理解できているか。 | ○ | ○ | ○ | 4 |
| | 1-2文字の造形を学ぶ（楷書）<br>唐の四大家・六朝の書の臨書を通じて、その歴史的背景と表現方法を学ぶ。 | 教科書・書道用具を用い、孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘・雁塔聖教序・顔氏家廟碑・牛橛造像記・鄭義下碑により、各楷書の歴史的背景や書風・筆法を理解させる。 | | ○ | | ○ | 楷書の概念・筆法が理解できているか。<br>唐の四大家・六朝の書道史が理解できているか。<br>各法帖の特徴をとらえて臨書できているか。 | ○ | ○ | ○ | 12 |
| | 1-2文字の造形を学ぶ（行書）<br>行書と楷書の違いと行書の基本的筆法。 | 教科書・書道用具を用い、行書と楷書の違い、行書独特の筆法について理解させる。 | | ○ | | ○ | 行書の概念と基本的な筆法を理解できているか。 | ○ | ○ | ○ | 2 |
| 2学期 | 1-2文字の造形を学ぶ（行書）<br>蘭亭序・争座位稿・風信帖の臨書を通じて、その歴史的背景と表現方法を学ぶ。<br>王羲之と顔真卿の書道史的な意義。<br>日本書道史と中国書道史の関連。 | 教科書・書道用具を用い、蘭亭序・争座位稿により王羲之・顔真卿の歴史的背景と表現方法を理解させる。<br>三筆・三跡と中国書道史との関連について理解させる。 | | ○ | | ○ | 王羲之・顔真卿などの書道史的位置づけが理解できているか。<br>日本書道史と中国書道史の関連が理解できているか。<br>行書的な字形及び筆脈が出来ているか。<br>各法帖の特徴をとらえて臨書できているか。 | ○ | ○ | ○ | 12 |
| | 1-2文字の造形を学ぶ（草書・隷書・篆書）<br>各書体の基本的な筆法と書道史的位置づけ。 | 教科書・書道用具を用い、各書体の歴史的背景と表現方法を理解させる。<br>楷書・行書も含めた全ての書体が現代においてどのように使われているか理解させる。 | | ○ | | ○ | 漢字の歴史及び書体の変遷と、各書体の現在の用いられ方が理解できているか。<br>それぞれの書体の特徴・筆法が理解できているか。 | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | 1-3創作する<br>落款印の製作。<br>これまで学習した書体・書風をもとに漢字作品を創作する。 | 落款印の製作を通して、篆刻の章法・刀法を学び、書との関連を理解させる。<br>漢字の書作品の創作を通して、書体・書風の理解を深め、漢字による表現と作品の鑑賞を行なう。 | | ○ | | ○ | 篆刻の章法・刀法が理解できているか。<br>漢字作品の基本的な構成が理解できているか。<br>作品鑑賞は適切か。 | ○ | ○ | ○ | 10 |
| 3学期 | 2仮名の書<br>平仮名・片仮名の成立。<br>仮名書道の基本的な筆法。<br>仮名古典の臨書を通じて仮名書道の表現方法を学ぶ。<br>散らし書きによる仮名作品の創作。 | 教科書・プリントを用い、漢字から仮名への変遷を理解させる。<br>仮名の筆法と、連綿、散らし書きなど、仮名独特の作品構成を理解させる。 | | | ○ | ○ | 仮名書道史が理解できているか。<br>仮名の筆法・連綿・散らし書きが理解できているか。<br>仮名作品の基本的な構成が理解できているか。 | ○ | ○ | ○ | 14 |
| | 3漢字かな交じりの書<br>漢字かな交じりの書の創作を通じて、現代的な書表現を学ぶ。 | 漢字かな交じりの書の創作を通し、作品の表現方法や構成の工夫を理解させる。<br>用具・用材による表現の違いを理解させる。 | ○ | | | ○ | 題材と作品の関係が理解できているか。<br>独自の表現をしようとしているか、また、できているか。 | ○ | | ○ | 6 |
| | | | | | | | | | | | 合計<br>70 |